



謹賀新年

年頭のごあいさつ



下関市防災協会
会長 波田 兼昭



新年あけましておめでとございます。
新春を迎え、会員事業所の皆様方に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

まず初めに元旦に発生した能登半島地震で、犠牲になられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

平素は当協会の運営に際し、下関市消防局並びに会員の皆様にご多大なるご指導、ご支援を賜り心より感謝申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、自然災害の猛威はとどまるところがなく、下関市においても6月末から7月にかけての大雨による被害が発生し、ライフライン等にも多大な影響を及ぼすなど、被害総額では過去最高の一〇億円という市の発表もあるなか、特に今回の災害は「想定外を想定する危機管理」の必要性を痛感したところでございます。

台風や集中豪雨などは、ある程度の発生予測はできることから、事前に対策をたて「自分のところは自分を守る」を念頭に被害の軽減を図り、さらには地域の共助にもご協力いただきたいと思います。

また、昨年の下関市の火災件数につきましては、73件と一昨年と比較して28件減少し、大規模火災の発生もなく越年でできましたことにご同慶の至りに存じます。

当協会といたしましても、地域社会及び行政と連携し、事業を積極的に展開するとともに、減災、出火防止になお一層尽力し「安全・安心」の実現に取り組んでまいりますので、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

おわりに本年が災害のない平穏な年となりますとともに、会員事業所の皆様方ますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げ、年頭のあいさつとします。

令和6年消防出初式挙行

新春を飾る恒例の下関市消防出初式が、去る1月6日(土)、下関市豊前田町、オーヴェイジョン海峽通り及び海峽メッセ下関で挙行されました。

オーヴェイジョン海峽通りにおいて、消防職・団員、防災協会会員事業所、婦人防火クラブ、幼年・少年消防クラブ員総勢804人、消防車両37台、ドローン3機による分列行進が行われた後、はしご乗り演技及び海峽まとい太鼓演技が盛大に披露され、新春にふさわしい華が添えられました。

海峽メッセ下関での式典では、前田下関市長の式辞に続き、消防職・団員の永年勤続表彰と平素の防火・防災活動に多大な功績のあった方々への表彰が行われ、波田防災協会長による万歳三唱で締めくくられました。



受賞おめでとうございます

令和6年下関市消防出初式で
次の個人と団体が表彰されました。
下関市長表彰
(敬称略)

〔一般表彰〕

〔個人〕

弟子待町婦人防火クラブ 会長 中原 菊江

〔団体〕

一般社団法人 巨樹の会 下関リハビリテーション病院
学校法人もみじ学園 認定こども園 もみじ幼稚園
ゆめシテイ

〔勤続表彰〕

〔十五年勤続〕

株式会社神戸製鋼所長府製造所 下田 智之

丸一ステンレス鋼管株式会社 柴岡 圭司

〔十年勤続〕

株式会社神戸製鋼所長府製造所 上野 謙二

丸一ステンレス鋼管株式会社 坂倉 駿



令和5年度下関市防災協会視察研修に参加して

彦島製錬株式会社 西 田 学



熊本城



熊本県庁防災センター

令和5年度の視察研修は、平成28年に発生した熊本地震の痕跡を辿るような視察研修であった。本研修に参加して初めて把握したことが、熊本県では、熊本地震の経験の後世に伝承するアプローチ「熊本地震記憶の回廊」が県内各地にて展開されており、研修はその中核拠点である熊本県防災センターからスタートした。当センターが今年の5月によりやく開設したこと自体が、熊本地震からの復興の兆しであると考えたが、施設内で展示パネルやプロジェクトジョンマップ等に纏められた、震災の過酷さを視ることで、完全な復興には未だ長い時間が必要であることを実感した。また、震災時の逃げ遅れから生じる被災防止を題材とした、講義「逃げ遅れゼロを目指す取り組み」を聴講し、熊本県独自の取り組みである、マイタイムラインと呼ばれる世帯単位の避難行動計画書を実際に作成することで、発災時の行動を事前に確定させておくことが被災リスクを大きく低下させると理解した。また、事業所のような大規模単位であれば尚のこと、避難行動計画を緻密に設定しておくことが重要であると感じた。

その後、熊本城や旧阿蘇キャン



旧阿蘇キャンパス

パスといった、被災から7年の年月が経過しても、震災の爪痕を色濃く残す施設を訪問することで、先にデータで把握した震災被害を実際に感取し、より現実味を帯びて震災を知ることができた。特に印象的な遺構は、旧阿蘇キャンパスの校舎で、耐震施工をしている部分と、そうでない部分で、被害状況に大きな違いが生まれていること。また、非耐震施工箇所であっても、建築基準法の規定以上の強度を持っていたことの2点が印象的であった。これらは、震度6〜7の地震が発生した場合で

の、身近な建築物への衝撃度合のイメージを大きく膨らませ、頭では大きな被害が生まれることを理解していても、実際にどのようなか判っていない、自身の樂觀性を補完するものとなった。

研修を通して、熊本県が震災から得たものを、少しでも自分の中に落とし込むことが出来たように感じる。今後は、いつ発生してもおかしくない「南海トラフ地震」等の自然災害に備え、公私共に発災前後の対応が確実に行えるよう、本研修で体験したことを活かしていきたい。

下関市火災発生状況 令和5年火災件数73件!

令和5年の火災件数は73件で前年に比べて28件の減少となりました。

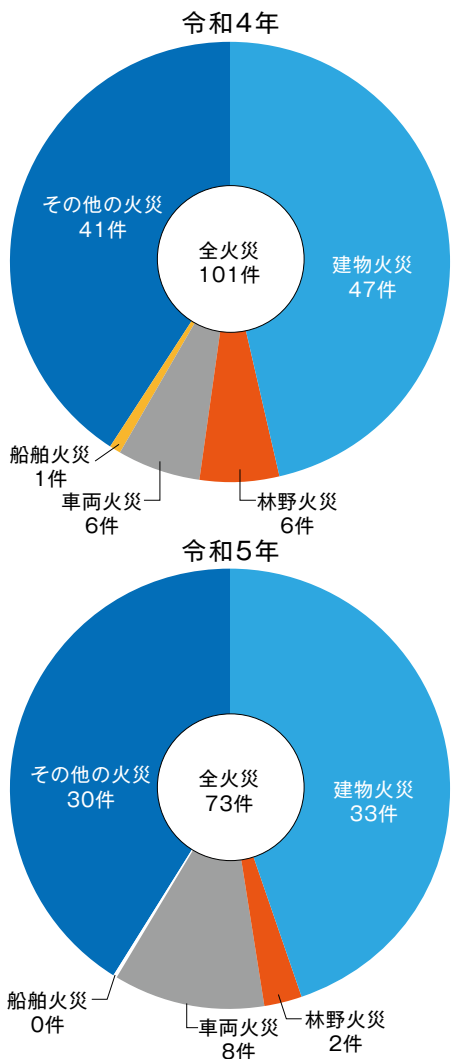
火災種別では建物火災が33件と全体の45%を占めています。

出火原因では、「たき火」「たばこ」「こんろ」がワースト3となっています。

火災による死者は10人で、昨年比べて8人増加しました。

火災の大半は、ちよつとした不注意や油断から起こっています。日頃から心がけ火災予防に努めましょう。

令和5年下関市火災概要



文化財を

火災から守ろう

毎年1月26日は「文化財防火デー」です。

昭和24年のこの日、法隆寺金堂から出火し金堂外壁に描かれた仏画の大半が焼失しました。寺社などの建造物、仏像、絵画など古くから伝わる文化財は、我々の先祖から守り伝えられてきた貴重な財産です。

これらの文化財を火災から守るため法隆寺金堂が焼失した1月26日を「文化財防火デー」と定め全国的に文化財防火運動が展開されます。

下関にも住吉神社本殿、功山寺仏殿といった国宝をはじめ、数多くの歴史的重要な建造物がたくさんありますが、火災により被害を受けたものは二度とよみがえりません。

文化財は国民共有の財産として、後世にこの遺産を継承していくため、地域の力でしっかり守っていきましょう。消防局では文化財を火災から守るため、文化財施設の防火チェックなどを行うこととされています。



事務局

だより

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

平素より協会運営に格別のご理解、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

協会事務局といたしましては、会員事業所が取組まれる防火・防災事業を推進し災害のない明るいまちづくりのお役に立てるよう尽力してまいりますので、本年も引き続きよろしくお願いたします。

★会費納入のお願い

今年度も残すところわずかとなりました。会費を納入されていない会員事業所におかれましては、早急に納入していただきますようお願いいたします。

振込先等詳細につきましては、協会事務局にお問い合わせください。

下関市防災協会

TEL 2333-9114
FAX 2333-9122